



中学3年生対象の獨協医科大学見学会。模擬講義やドクターヘリ、大学病院の見学、本校卒業生との座談会などを行っている



獨協ではほとんどのクラブで中学生と高校生が一緒に活動する。写真は硬式テニス部時代の坂本さん(右から3番目)



獨協祭(文化祭)の様子

医学部志望者が多い環境で 仲間と励まし合って合格へ

自由な校風で知られる、完全中高一貫の男子校である獨協中学・高等学校。医学部を志望する生徒が多く、多くの卒業生が医師として活躍している。生徒たちは、難関とされる医学部受験にどのように立ち向かっているのか、また、そんな生徒たちに対してどのようなサポートが行われているのかなどについて、今春医学部に合格した卒業生3人に、進路指導担当の齋藤有子先生が話を聞いた。



高校2年 福田弦さん(美術部)による校舎の絵

学業も含む多彩な活動が 生徒の能力を開花させる

齋藤 最初に、医師を志したきっかけを教えてください。



寺内 小学校の頃からラグビーをしていて、怪我をした時に親身になって接してくれた医師の姿に憧れを抱いたのが最初だったと思います。

坂本 10歳で心臓の手術を受けたのですが、そのときの担当医の先生の影響で、医師になる夢を抱いていました。

清水 医療関係の仕事に就いていた両親の影響で、発展途上の地域で医療を提供したとか、脳について勉強したいと思っていたことが、大きな要因になったと思います。

齋藤 獨協の6年間で、印象に残っている活動や、力を入れた活動はありますか。

寺内 英語ディベート部を自分たちで立ち上げたことです。ネイティブの先生に指導していただき、高1ではマレーシアの世界大会に参加しました。

清水 医療関係の仕事に就いていた両親の影響で、発展途上の地域で医療を提供したとか、脳について勉強したいと思っていたことが、大きな要因になったと思います。

齋藤 獨協の6年間で、印象に残っている活動や、力を入れた活動はありますか。

豊富な医学部受験情報とOB医師らの有益な助言

齋藤 勉強や進路選択に際して、教員からのアドバイスで役立ったことはありませんか。

寺内 僕以外は、一般入試を経ずに大学に進学した家族の中で育ったため、医学部受験は右も左もわからない状況でした。しかし、獨協には多くの医学部進学者がおり、面接も含めた豊富な受験情報があります。英語が得意な僕に、英語を活かせる大学に関する詳細なアドバイスをいただき、その通りに受験したところ、結果を出すことができました。

坂本 中1のときに、親が担任に塾に通った方がいいかを聞いたことが

ありました。「全く必要ありません。学校の勉強をしっかりやって上位をとるべきです」とアドバイスされたため、その通りしていました。それが結局は、基礎を固めることに役立ちました。

清水 複数の大学に合格して進学先を悩んでいたとき、校長先生が何人ものOB医師に連絡してください、最適な大学を選択することができました。多くのOB医師の方々の助言が本当に役立ちました。

齋藤 将来、どんな医師を目指していますか。また、卒業してから改めて感じる獨協の魅力や、後輩たちへのアドバイスがあれば教えてください。

寺内 遠隔授業を経験したことで、ICTと医療の未来に可能性を感じています。自力で病院に来られない患者さんを遠隔医療で治療できるような医師になりたいと思っています。獨協の最大のメリットは、医学部を目指す仲間の存在だと思っています。豊富な情報と合わせて、医学部志願者にふさわしい学校だと思います。

坂本 自分の実体験から、やはり患者さんの精神面をしっかりサポートできる医師になりたいと思っています。獨協に入学したら、まずは学校の勉強をしっかりやってほしいと思います。それが医学部に合格できる

したし、高2では全国大会に東京都代表で出場し、「ベストスピーカー賞」を受賞することができました。

坂本 硬式テニス部に所属し、最高学年の高2のときは、最も人数が少ない学年なのに、校内最大の人数の部活を指導しなければならず、勉強との両立に最も心を砕きました。文化祭での屋台やお化け屋敷の企画も含めて、限られた時間で、計画的に物事をこなしていった経験が、受験勉強にも役立ったと思っています。

清水 僕も文化祭実行委員として、イベント部門の裏方を務めたことで、受験勉強にも通じる、時間内に作業を最大限に効率化させるスキルを身につけることができました。入学式で宣言を読ませていただいた経験が、当初は勉強へのモチベーションになりましたが、そのうちに勉強が「や

らなければならぬもの」から「普通にできるもの」に変わり、最後は「楽しいもの」に変わりました。

勉強せざるを得なくなる環境に自分を追い込む力

齋藤 医学部に向けての本格的な受験勉強では、どんな工夫をしたのでしょうか。

寺内 本気で受験勉強を始めたのは高2の冬からです。ストイックな方ではないため(笑)、高3になる前に漫画本をすべて売り払い、スマホをガラケーに替えて、勉強以外の誘惑を断ちました。

坂本 スマホに辞書も入っているのに、ガラケーには替えませんでした。ガラクタを全て消去しました。無理して勉強すると、次の日に影響が出て逆効果なため、休日の勉強は10時間程度にとどめて無理をしないようにしていました。

清水 僕も高2くらいから受験勉強に取り組みましたが、勉強時間は決めませんでした。1つの科目でやる範囲をある程度決めたら、それが終わるまでは席を離れないと心に決めて、集中するようにしました。

齋藤 落ち込んだときなど、メンタル面のケアはどのようにしていましたか。

確実な基礎力を作ってください。

清水 医療が行き届いていない地域での活動や、脳の機能の解明、難病の治療など、いろいろな夢があり、それらを実現できるようにがんばりたいと思っています。生徒が自分のペースで勉強するのを助けてくれる点が獨協の一番の魅力だと思います。個別に必要な教材を提供していただくなど、勉強面でのサポートに感謝しています。

対談を終えて

進路指導担当
齋藤 有子先生



3人が口々に話してくれたように、皆で励まし合う雰囲気があることが本校の最も大きな特色だと思っています。

中3からはOBや社会人の方々を招いての定期的な講演や、OBの勤める病院や医学部への訪問等、生徒の視野を広げる活動を積極的に行っています。また、生徒や保護者を対象に医学部進学説明会を開催するなど、保護者と共に医学部受験に向かっていく環境を整えています。卒業生医師たちのOB組織「ドクターズクラブ」の存在も、生徒たちには力強い味方です。

医学部を目指す生徒たちに対しては、個別に指導するシステムをはじめとして、今後も勉強しやすい環境を拡充させていくつもりです。

